

57 たきの みね こ ふん ぐん  
瀧ノ峯古墳群

58 たきの みね こ ふん ぐん しゅつ ど い ぶつ  
瀧ノ峯古墳群出土遺物



指定 市 史 跡 昭和62年10月20日  
所在地 根 岸  
所有者 個人 6 人

指定 市有形文化財 昭和62年10月20日  
所有者 佐 久 市



瀧ノ峯古墳群は、蓼科山から佐久平に向けて放射状に山麓が延びて、平井区へ突出する尾根上に位置する。1～4号墳は、この尾根が緩やかに傾斜する標高800m内外の平坦部に群在しており、5号墳はさらに北東へ300m下った尾根端部に存在する。昭和49年（1974）に炭焼き作業の際、1号墳から鉄剣とやりがんな状の鉄製品が発見されている。

昭和61年（1986）市志編纂事業の一環として、佐久地方の前期古墳を明らかにする目的で、1・2号墳の発掘調査が行われた。その結果、墳形はいずれも前方後方型を呈し、規模は2号墳で全長18.3mを測り、1号墳は2号墳と同規模と推定された。2号墳の主体部はすぼりの土壙で、土壙内からは壮年期女性の歯とガラス小玉1点が出土している。出土遺物としては、1号墳から鉢、2号墳から甕・壺・器台・高坏・小型壺・鉢など、いずれも弥生時代から古墳時代へと過渡的な様相を示す土器類が出土した。

よって、瀧ノ峯古墳群は佐久地方で集落から隔絶した場所に築造された墳墓として最初の事例と推定され、前方後方型の墳墓としては唯一確認されたものである。

1号墳出土遺物 鉄剣1点、<sup>やりがんな</sup>槍鉾状鉄製品1点、鉢1点  
2号墳出土遺物 甕5点、壺3点、器台5点、高坏6点、小型壺6点  
鉢3点、ガラス小玉1点